

# 池袋学

東京芸術劇場 × 立教大学 連携講座

住む人、働く人、学ぶ人、遊ぶ人みんなが参加できる池袋学が今年も開講

## 春季

### 「池袋モンパルナスの原風景 —野見山暁治氏に聴く—」

日程: 2015年5月23日(土) 14時~16時  
講師: 野見山暁治(画家、2014年文化勲章受章) 司会: 押見輝男(立教大学名誉教授)  
会場: 立教大学太刀川記念館3階ホール  
※共催: 新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館

### 「トキワ荘と池袋のマンガ文化」

日程: 2015年5月26日(火) 19時~21時  
講師: 山田夏樹(法政大学文学部助教、立教大学兼任講師)  
会場: 東京芸術劇場 5F シンフォニースペース

### 「セゾン美術館の日常 —前衛の拠点として—」

日程: 2015年7月4日(土) 14時~16時  
講師: 新見隆(武蔵野美術大学芸術文化学学科教授、大分県立美術館館長)  
会場: 東京芸術劇場 地下2F リハーサルルームL

## 夏季

### 「戦後池袋の検証 —ヤミ市から自由文化都市へ—」

日程: 平成27年9月12日(土) 14時~16時  
パネリスト: 川本三郎(文芸評論家)、吉見俊哉(東京大学教授)、マイク・モラスキー(早稲田大学教授)  
司会: 石川 巧(立教大学教授)  
会場: 立教大学太刀川記念館3階ホール  
※共催: 池袋=自由文化都市プロジェクト

## 秋季

### 「多様な文化をうみだす都市・池袋 —都市研究の観点から考える—」

日程: 平成27年10月10日(土) 14時~16時  
講師: 三田知実(立教大学社会学部現代文化学学科助教)  
会場: 立教大学太刀川記念館3階ホール

### 「女性が暮らしやすいまちづくり —消滅可能性都市から持続発展都市へ—」

日程: 平成27年10月24日(土) 14時~16時  
講師: 萩原なつ子(立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授)  
会場: 立教大学太刀川記念館3階ホール

### 「リアル池袋論 —国際都市としての池袋—」

日程: 平成27年10月31日(土) 14時~16時  
講師: 鈴木庸介(立教大学兼任講師、(株)TOKYOSTAY代表、元NHK池袋担当記者)  
会場: 立教大学太刀川記念館3階ホール

## 参加料: 1,000円(夏季講座は無料)

※立教生は全講座無料(当日受付で学生証をご提示ください)

主催: 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)/立教大学

後援: 豊島区

協力: NPO法人ゼファー池袋まちづくり/立教大学ESD研究所/トキワ荘通り協働プロジェクト

東京芸術劇場

Tokyo Metropolitan Theatre



立教大学



平成27年度 文化庁 劇場・音楽堂等活性化事業

# 池袋学

東京芸術劇場 × 立教大学 連携講座

池袋に住む人、暮らす人、池袋で働く人、学ぶ人、池袋を訪れる人、みんなが参加できる池袋学を今年も開講致します。このまちの由来や歴史、文化、暮らし、街並みなど、色々な視点で池袋を語ります。そしてこれからの池袋について考えます。2015年シリーズは、文化、歴史、そして現在の池袋の都市研究、まちづくり、都市論と今回も多彩なラインナップでお届けします。全講座制覇もよし、興味にまかせてつまみ食いするもよし、それぞれの楽しみ方を発見してください！

定員：東京芸術劇場会場 70名 / 立教大学会場 150名

※先着順・定員に達し次第、お申込を締切ります。

参加料：1,000円(夏季講座は無料)

※立教生は全講座無料(当日受付で学生証をご提示ください)

## お申込み方法

東京芸術劇場HP、立教大学HP上の「お申込みフォーム」にご記入のうえ送信ください。

※ご希望の講座の他に、連絡先アドレスなどの登録(無料)が必要です。 ※お申込み時にいただく個人情報は本講座以外の目的には使用しません。

●主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)/立教大学 ●後援：豊島区 ●協力：NPO法人ゼファー池袋まちづくり/立教大学ESD研究所/トキワ荘通り協働プロジェクト



## 東京芸術劇場

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1  
Tel. 03(5391)2111 <http://www.geigeki.jp/>  
JR、東京メトロ、東武鉄道、西武鉄道池袋駅西口徒歩2分。  
池袋駅地下2b出口直結。

## 立教大学

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1  
Tel. 03(3985)2202 (広報課) <http://www.rikkyo.ac.jp/>  
JR、東京メトロ、東武鉄道、西武鉄道池袋駅西口徒歩7分。

劇場内の一時託児がご利用いただけます。  
講座の一日前正午までにお申込みください(有料、定員制)。  
東京芸術劇場託児施設 だっこルーム 03-3981-7003

お問合せ ●東京芸術劇場 事業調整係：03(5391)2116 ●立教大学 教学連携課：03(3985)2204

## 春季

### 「池袋モンパルナスの原風景 —野見山暁治氏に聴く—」

日程：2015年5月23日(土)14時～16時

講師：野見山暁治(画家、2014年文化勲章受章) 司会：押見輝男(立教大学名誉教授)

会場：立教大学太刀川記念館3階ホール ※共催：新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館

1939(昭和14)年9月、東京美術学校(現・東京芸大)の学生だった青年・野見山暁治は、青山から池袋のアトリエ村・さくらが丘第2パルテノンに引っ越してきます。その後、1943(昭和18)年11月に入隊するまでの4年間をこの地で過ごします。今回は、野見山氏に当時の池袋の様子や、画家たちとの出会い、彼らを育んだものについてお話を伺います。司会・聴き手は、10年前に「まちかど回遊美術館」を提唱したひとりの押見輝男氏です。池袋モンパルナスを、社会心理学の領域より「間(あわい)」の視点から迫ります。

### 「トキワ荘と池袋のマンガ文化」

日程：2015年5月26日(火)19時～21時

講師：山田夏樹(法政大学文学部助教、立教大学兼任講師)

会場：東京芸術劇場 5F シンフォニススペース

1950年代の豊島区は椎名町(現・南長崎)。池袋にほど近いこの地に、若きマンガ家たちが住むアパートがありました。手塚治虫、寺田ヒロオ、藤子不二雄、藤子・F・不二雄、石ノ森章太郎、赤塚不二夫、つのだじろう、水野英子……この「トキワ荘」に集まったキラ星のごとき才能たちが、それまで単なる娯楽の一つであった「漫画」を「文化」とまで評価される世界の「マンガ」へと育て上げました。著書『ロボットとく日本』にてトキワ荘のマンガ家の作品を取り上げ、身体感覚の変容を読み解く山田夏樹氏が、現在から見たトキワ荘と池袋のマンガ文化について語ります。

### 「セゾン美術館の日常 —前衛の拠点として—」

日程：2015年7月4日(土)14時～16時

講師：新見陸(武蔵野美術大学芸術文化学科教授、大分県立美術館館長)

会場：東京芸術劇場 地下2F リハーサルルームL

1990年代から、新しい、池袋という町の活気とにぎわいと、先端の文化をつなぐ、前衛の拠点として活動したセゾン美術館の日常の日々を、当時、まだ駆け出しキュレーターとして東奔西走しながらも、「日本の眼と空間」、「パウハウス1919-1933」、「イサム・ノグチと北大路魯山人」、「柳宗理のデザイン」など数々の刺激的な展覧会を企画してきた新見陸氏が、展覧会企画にかかわった学芸員の視点から、振り返ります。

## 夏季

### 「戦後池袋の検証 —ヤミ市から自由文化都市へ—」

日程：平成27年9月12日(土)14時～16時

パネリスト：川本三郎(文芸評論家)、吉見俊哉(東京大学教授)、マイク・モラスキー(早稲田大学教授)

司会：石川 巧(立教大学教授)

会場：立教大学太刀川記念館3階ホール ※共催：池袋＝自由文化都市プロジェクト

戦後の池袋は、ヤミ市とよばれるマーケットを中心に都市の活力を蓄えました。食料や物資を求めて多くの人々が集い、そこにさまざまな交流が生まれました。欲望にまみれたヤミ市の世界は、混沌であると同時に新たな活力の源泉でもあったのです。また、日本が敗戦からの復興を遂げたのちに池袋の街にはヤミ市が残り、自由で柔軟な都市文化の基盤となりました。今回のシンポジウムでは、戦後70年という地点から池袋の歴史と魅力に迫り、「自由文化都市」としての未来を考えます。

## 秋季

### 「多様な文化をうみだす都市・池袋 —都市研究の観点から考える—」

日程：平成27年10月10日(土)14時～16時

講師：三田知実(立教大学社会学部現代文化学助教授)

会場：立教大学太刀川記念館3階ホール

多様な文化をうみだす都市・池袋。北口には、移民の方々が料理店や食材店を営んでおり、チャイナタウンが形成されています。近年では東口に、アニメ系若者サブカルチャーの拠点も登場しており、多様な文化を生みだす都市として池袋が成長を続けています。今回の池袋学では「多様な文化都市・池袋がなぜ生まれたのか?」「池袋の近未来は、どうなるのか?」という2つの問いを都市研究の観点から明らかにします。

### 「女性が暮らしやすいまちづくり —消滅可能性都市から持続発展都市へ—」

日程：平成27年10月24日(土)14時～16時

講師：萩原なつ子(立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授)

会場：立教大学太刀川記念館3階ホール

日本創生会議から23区で唯一「消滅可能性都市」とされた豊島区。要因は20～39歳の女性の転入が大幅に減るという予測にありました。区は消滅防止に向けて女性たちの意見やニーズを区政に反映し、「女性が暮らしやすいまちづくり」に向けて「としまF1会議」を設置、その提言を取り入れた平成27年度予算案を発表しました。本講義では「としまF1会議」から政策提言までのプロセスを通して、女性が暮らしやすいまちづくりの意味について考え、市民協働のまちづくりの可能性を探ります。

### 「リアル池袋論 —国際都市としての池袋—」

日程：平成27年10月31日(土)14時～16時

講師：鈴木庸介(立教大学兼任講師、株式会社TOKYOSTAY代表、元NHK池袋担当記者)

会場：立教大学太刀川記念館3階ホール

池袋にいる外国人の多様化が加速しています。外国人向け宿泊施設や飲食店の急増、池袋駅から徒歩圏内に移転したフランス国立の小中高等学校、さらには女性向けオタク文化の聖地として世界的な認知度の高まりなど、「アジア系中心」から多様な人々の集う国際都市へと、池袋は大きな転換期を迎えています。彼らは池袋に何を求め、何を思い、池袋をどう変えてゆくの、最前線の現場にビジネスと学問、2つの視点から迫ります。